

地震・津波対策の検討状況等について

◆地震・津波対策の検討体制等について

平成25年1月9日(水)
平成24年度 第3回 大阪府河
川整備審議会 参考資料 1

大阪府防災会議

南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会

【検討内容】

- (1) 国が示す地震・津波による被害想定を検証
- (2) 府内市町村ごとの詳細な被害想定
- (3) 被害想定に対する災害対策の方向性
- (4) その他の必要なこと

(委員)

河田 恵昭 (関西大学社会安全研究センター長 教授) (部会長)
井合 進 (京都大学防災研究所 教授)
(専門委員)
岩田 知孝 (京都大学防災研究所 教授)
亀田 健二 (関西大学政策創造学部 教授)
近藤 民代 (神戸大学大学院 准教授)
高橋 智幸 (関西大学社会安全学部教授)
矢守 克也 (京都大学防災研究所教授 巨大災害研究センター長)

南海トラフ巨大地震土木構造物耐震対策検討部会

【検討内容】

- (1) 国が示す地震・津波に対する土木構造物の点検・検証
- (2) 二次災害の防止に向けた必要な対策の取りまとめ
- (3) その他の必要なこと

(委員)

井合 進 (京都大学防災研究所 教授) (部会長)
(専門委員)
伊津野 和行 (立命館大学 教授)
鋤田 泰子 (神戸大学大学院 准教授)
高橋 智幸 (関西大学社会安全学部 教授)
道奥 康治 (神戸大学大学院 教授)

土木構造物の点検の流れ

南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会

南海トラフ巨大地震土木構造物耐震対策検討部会

内閣府提供の地震動波形



大阪府版の地震動波形に整理

津波浸水（陸域への遡上）の想定

防潮堤・堤防の沈下量の算定

既設の各土木施設の耐力等の確認

府域の土木構造物の点検（地震動）

津波シミュレーションの実施
津波浸水区域の想定

府域の土木構造物の津波対策

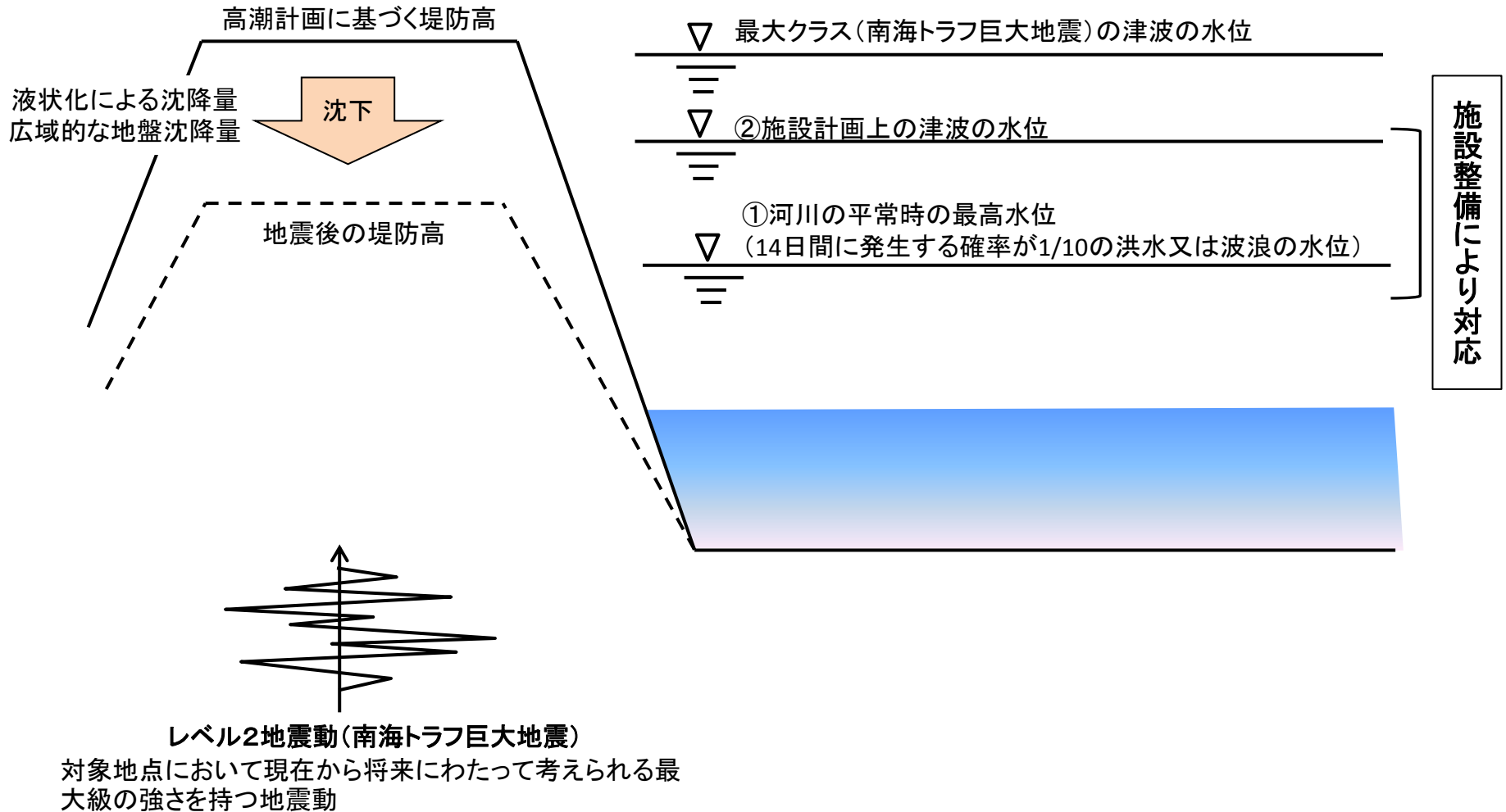
被害想定等の見直し

点検結果及び必要な対策の取りまとめ

地域防災計画の見直し

地震防災APの見直し²

河川構造物（堤防）の地震・津波対策



5-1 河川堤防の詳細耐震点検について

■照査基準

H24.2 河川構造物の耐震性能照査指針・解説

■点検の考え方

○府内154河川(775km)の内、堤内地盤高または沈下後[※]の堤防高が照査外水位より低い低地河川を抽出

※最大沈下量:堤防高の75%

・対象河川数:32河川(105km) - 90構造形式

《求める耐震性能》

○『河川への遡上津波対策に関する緊急提言』H23.8

津波対策としての河川堤防の高さは、計画上の津波水位に必要と認められる高さを加えて設定すべきであり、必要と認められる高さは、隣接する海岸堤防の高さとの整合、周辺のまちづくりとの関係等を勘案して設定すべき

○『河川構造物の耐震性能照査指針・解説』H24.2

➢最大級の地震動(L2-1)発生後においても、耐震性能の照査として考慮する外水位に対して、堤防として“河川の流水の河川外への越流を防止する機能”を保持することとする。

➢照査外水位

・14日間に発生する確率が1/10の洪水又は波浪の水位

・施設計画上の津波(L1)の水位

の何れか高い方とし、波浪・津波で照査外水位が決定する場合は、地殻変動に伴う“広域な地盤沈降量”を加味して評価を行う。

■点検手法

【概略点検】

チャート式耐震診断システムにて詳細照査対象区間を抽出し、併せて簡易的に堤防沈下量を把握する。

【詳細点検】

一次点検の結果、沈下後の堤防高が照査外水位を下回った場合、次の条件で2次元解析を実施する。

・耐震補強未施工(堤防): 静的FEM解析

・耐震補強施工済(堤防): 動的FEM解析

概略点検

詳細点検

